

# 第7回 文教厚生常任委員会

開催日 令和4年4月26日（火曜日）

開催場所 粕屋町役場 3F 31会議室

開催時間 9:29～11:56

出席者	議員	井上委員長・宮崎副委員長・本田委員・久我委員 田川委員・福永委員・古家委員・小池議長
	事務局	山田主幹
	担当課	住民福祉部（神近部長） こども未来課（渡辺課長） 学校教育課（黒田課長）

欠席者 なし

報告事項

1) 令和4年度町内保育所、認定こども園入所児童数及び職員数  
町立幼稚園、保育施設等利用幼児の推移及び保育所・認定こども園の児童数、職員数の表の提示により説明があった。

町立幼稚園入園率は44.8%、町立保育所は74.2%、認定保育所は94.6%、全体では90%となっている。現在、待機児童はいないが、希望する保育所に入れない方がいるとのこと。

質疑では、定員割れが起こっている幼稚園や保育所に対しての原因の調査や推奨などを行っているか。幼稚園・保育園の無償化以来、町立幼稚園の定員割れが著しく、町はどう考えているのかと質問があった。魅力ある保育所づくりを園長とともに考えていかなければならないという返答があった。

特に町立幼稚園は、定数割れが激しく、今後考えていかなければならない、これはほかの課と横の連携も図り町全体で考えていかなければならないのではという意見や、他の自治体の現状をもとに調査をして、検討委員会を立ち上げてほしいという意見が出た。

2) 未就学児及び児童・生徒の新型コロナウイルス感染症に関する提言書の報告

提言書の4項目について回答があった。

① 新型コロナウイルス感染により休園・休校したときの保護者が、仕事を休まなければならなくなった時の情報発信について、各施設よりお知らせし労働者の相談窓口があることも周知を図っている。

質問 具体的な周知の方法は。→厚生労働省のお知らせを随時行っている。問い合わせは、今のところない。

	<p>自治体でも、支援金を使えないものか。→厳しい状況であり、一件一件の対応するのが難しい。</p> <p>② 新型コロナウイルスの感染で休園やクラス閉鎖が決定したとき、速やかにすべての保護者にメール等で連絡している。</p> <p>質問 学級閉鎖になる前の運用は。</p> <p>→ガイドラインがあり、クラスに複数の児童・生徒が多数いるという時に行い、1名出ても行なわない。</p> <p>保護者の中で、陽性者が1人でも出たら知らせてほしいというお知らせは。</p> <p>→個人が特定されるおそれがあるし、保護者によって知らせてほしくないと思われる方もあり、その時その時の状況で対応している。</p> <p>③ 保護者の不安を解消するために核施設と担当所管が協力して対応し、また学校管理職や学校教育課が相談窓口となり対応している。</p> <p>④ 小児用ワクチン接種については、事前に厚労省からのリーフレットを各家庭に送付している。小児接種については、保護者の判断で任意接種となる。</p> <p>個別の相談は、かかりつけ医やコールセンターなどで行っている。</p> <p>質問 5歳以下はどのようになっているか。</p> <p>→治験もあってないので、難しい。園で感染対策をきちんと行うことが大切。</p>
<p><b>協議事項</b></p>	<p>1) 行政視察について 調査・研究しながら、適した場所を選定しなおす。</p> <p>2) 今後の研究課題について 「今後の粕屋町立保育所、幼稚園の在り方について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古家議員より視察場所の提案 粕屋町に近い行政・筑後市の子育て支援・・・ワンストップの支援、人口減少が始まっている。市立幼稚園はない。 福津市は人口増加の市であり市立幼稚園は一園で、子育てに向けて力を入れている。</li> <li>・粕屋町は、公立をどう存在させるのか。</li> <li>・保護者が期待して預けている実態調査を知らなければならない。</li> <li>・幼保一体型にしないと数が減っていく。幼稚園をどうにかするのが先ではないか。</li> </ul> <p>などの意見が出た。</p> <p>○町立の幼稚園の在り方について、提言書を作成するのか。 幼稚園を存続させるのかどうかなど資料が必要である。</p>